

(別紙様式第3号)



平成27年度岐阜県商工労働部試験研究機関評価員会議

生活技術研究所評価報告書

(評価対象年度 平成24年度～平成26年度)

平成28年3月

岐阜県生活技術研究所

岐阜県商工労働部産業技術課

1 評価員会議実施概要

(1) 評価日

平成27年10月28日(水)

(2) 評価員名簿

土川 覚	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授
金山 公三	京都大学生存圏研究所 教授
岡田 賛三	飛騨産業株式会社 代表取締役社長
北村 斉	日進木工株式会社 代表取締役社長
田島 宣浩	セブン工業株式会社 企画開発部長

(順不同、敬称略)

(3) 評価対象年度

平成24年度から平成26年度

2 評価結果

	評価員A	評価員B	評価員C	評価員D	評価員E	平均
研究課題の設定	5	3	3	5	3	3.8
研究体制	4	3	3	4	5	3.8
成果の発信と実用化促進	4	4	3	4	3	3.6
技術支援	5	4	5	5	5	4.8
人材の育成・確保	4	3	2	5	3	3.4

(評価員の記号と評価員名簿の順は不一致)

点数基準

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 抜本的な見直しが必要 | 2 見直すべき点がある |
| 3 ほぼ適切である | 4 優れている |
| 5 非常に優れている | |

3 評価員からの意見・提言及びそれを受けての試験研究機関等の所見・改善策等

(1) 研究課題の設定

※ ◎印：改善策

意見・提言		評価を受けての試験研究機関等の所見・改善策等
A	課題設定のプロセス、県民や産業界のニーズ、基本目標・基本方向に沿っているかという点については非常に優れている。	
	「現状のニーズ対応」に加えて「将来を拓くシーズ」も盛り込む姿勢があればさらに素晴らしい。	企業の現場ニーズを取集するとともに様々な技術情報を収集し、将来に繋がる潜在的なニーズも把握しながら研究課題を設定していきます。
B	現在の研究課題の設定は、課題数も多く、ニーズを調査した上での設定がされており、適切であると判断します。 また、県内だけにとどまらず、県外の企業や研究機関との連携も図られており、課題設定に関しては問題ないと思います。	
	研究所として、木材に主眼を置いた高度な基礎研究や、木材を科学するようなテーマ設定があっても良いのではと思います	◎ 基礎研究や科学技術は大学が担い、公設試はこれらの知見を生かした、実用化研究という位置づけの中で研究課題を設定しています。 ご指摘のように「飛騨・高山ブランド」や「岐阜県ブランド」を向上・強化するためには、木材に特化した高度かつ基礎的研究の必要性も否めないため応用研究への前段階としてこれらの研究課題の設定も視野に入れていきます。
C	基本方針の3つの創出目標を踏まえて、【木製品・家具製造業の現状と今後の展望】がメインテーマの研究課題として設定され、数多くの実績が研究成果となっており、高山市に存在する意義と貢献度は多大なものを感じている。特に、㊦飛騨木工連合会における「飛騨の家具®」ブランド化推進活動の地域団体商標の使用許諾における認証基準要綱の一つ「品質基準」はPL法等、品質に関わる法令順守と世界基準（ISO+JIS）による公的機関の耐久性試験検査を毎年継続して義務付けており、企業認定審査の重要な要素となっている。併せて試験結果に伴い技術指導もお受けしている。さらに、日本一の家具産地として「飛騨の家具」ブランド化が	

C	現在のレベルまで推進できたことは生活技術研究所との親密な相談、調査、検査、研究開発等を長年にわたる累積が現状のベースとなり、「曲木を科学する」やユーザー参加による「ユニバーサルデザイン家具」「起立補助椅子」「人にやさしい椅子づくり」などの数多の研究開発と技術支援により、加工技術の高度化による品質向上に貢献している。	
	今後も飛騨の家具に限らず、飛騨地区の地域資源を活かした「飛騨・高山ブランド」の保護、向上、強化に向けてイメージアップ・レベルアップを図り、「人づくり、モノづくり、町づくり、そしてブランドづくり」を目指して、各業界団体や企業と連携して、世界市場に通用する「製品の安全文化の醸成」をベースとした「CSR」活動促進の中核としての影響力を持った研究開発に指導・育成を期待する。	全国的にも認知されている「飛騨高山の家具」ブランドの強化のために、今後もJIS、ISO試験等の正確かつ迅速な実施により、製品の安全安心に対する信頼性を高め、合わせて人材育成や評価技術の向上も推進します。
D	特徴的な地域密着課題が目をつけた。今後も同様のアプローチをとりつつ新しい課題を設定していただきたい。	
E	人間工学の先端的な技術も大事であるが、漆、曲げ木等の古くからある技術にも着目してほしい。	曲げ木に関する研究は、当所の基盤研究として継続的に取り組み、職人による経験的な勘の部分を実験的に解明し、製造技術の安定性に寄与します。一方、漆に関しては、現有職員での対応が難しいため、全国や他研究所と連携して、情報交換や技術支援を行っています。今後も必要に応じて、伝統技術の深化を検討していきます。

(2) 研究体制

※ ◎印：改善策

意見・提言		評価を受けての試験研究機関等の所見・改善策等
A	ネットワーク重視、分野バランスなどに配慮し、優れた体制を組まれている。	
	マンパワーに比較して仕事量が多く多忙な感が否めず、この研究者の疲弊や研究能力の停滞が危惧されるので、現状維持や更なる発展のためには人的リソースの改善が望まれる。	研究員数に関しては工業系試験研究機関全体の機能強化を検討していく中で、県の施策との整合も図りながら議論していく課題と認識しております。

A		また、企業支援や研究開発に必要な技術レベルの維持・向上のため、若手・中堅研究職員を中心に大学・企業等への研修により、研究開発人材の資質向上に努めます。
B	近隣の大学や森林総合研究所、産業技術総合研究所との交流を積極的に図られており、良好な状態であると思います。	
	地元企業・大学・他県公設研究機関等との連携により積極的な共同研究体制を構築しており、学会・講演会・セミナー等に参加し、ネットワークによる情報・技術交流が行われている。	
	<p>研究開発の予算や期間の制約、企業・団体等の協力度合い、その他の理由で中断したような場合、やむを得ず中止したとはいえ、再度その開発課題の内容を検証し、「もったいない」精神で続行の価値のあるものは、復活し完成するまで継続することを望みたい。</p> <p>例えば、一企業からの依頼で開発しようとしていた場合、依頼企業に対する守秘義務が発生するが、そこであきらめずに、依頼企業との調整の上、他社を含めた共同開発とするべきではないだろうか。</p>	<p>企業ニーズを収集しながら、業界に役立つ課題については、関係機関と調整した上で、再チャレンジを含めた課題を設定していきます。</p> <p>◎ 例えば、共通ニーズや未解決課題は、複数の企業からなる研究会などにより継続して取り組むよう努めます。</p>
C	<p>研究者11人という限られた人員ですべての研究開発や技術支援（耐久性試験検査など）がなされており、人員不足の中にあってよくやっている。</p> <p>反面、今後の展望を考えれば、国内において少子高齢化やライフスタイルの変化、環境・健康そして安全文化へのニーズが高まり、それらは世界市場にも共通する上で、現状人員での対応だけではとても追いつかない状況になることは明白である。</p> <p>依頼試験が2,000～3,000件/年しかも、県外からの依頼が50～60%あり、全国の都道府県の公的研究機関の中でも岐阜県として誇るべき研究所であることをもっとアピールすることが必要であり、県の予算で運営している研究所だから県外からの依頼が増加することを評価しない風潮があってはならない。</p> <p>すなわち、地方創生の観点から地域ブランド化は必須条件であり、消費者</p>	<p>地域産業に貢献する研究所、家具・木工を主体とした全国でも稀な研究所としての自覚を持ち、今後も各研究員の資質向上に努めます。</p> <p>また、高齢化社会・環境・健康・安全など今後のニーズに対応した製品開発や、地域のブランド化を支援するため、さらなる試験機器の整備も行っていきます。研究員の数に関しては工業系試験研究機関全体の機能強化を検討していく中で、県の施策との整合も図りながら議論していく課題と認識しております。</p>

C	からの「評価と期待」に応えるために岐阜県生活技術研究所が国内外への発信基地として、その存在と活動および業績は、「飛騨・高山ブランド」さらには「岐阜県ブランド」を向上・強化するものであり、増員と人材育成を強化するべきである。	
D	概ね優れているが、連携大学院活動については対応を考えるべきであると判断する。	◎ 当所として、現在および将来的に大学との連携できる分野があるのか話し合いの場を設け、連携大学院活動の継続について検討します。

(3) 成果の発信と実用化促進

※ ◎印：改善策

意見・提言		評価を受けての試験研究機関等の所見・改善策等
A	全般的に優れているが、遂行している研究レベル高さや量に比較して学術論文が少なく、改善が必要。このことが、研究開発能力の向上や外部資金獲得につながるので、長期的な視野での対応が望まれる。	今後とも研究員の自己研鑽、資質向上のために論文投稿を奨励していきます。
B	知的財産に関しては、技術移転も重要ですが、他社に特許取得を先行されぬよう、先使用権を公証役場で取得するなどして、防御にも努めていただきたいと思えます。	先使用権について、公設試験研究機関は不実施機関であるため、防衛の意味で先取得権を取得することは考えておりません。
C	限られた研究員数の中で数多くの試験依頼に対応しながらも、活発な成果発信を行っている。研究課題の設定で前述した「飛騨の家具®」ブランド化の一環として、消費者向け小冊子「飛騨の家具ものがたり」を発刊するに当たり、【「飛騨の家具」安心・安全宣言】を発表し、品質基準の記載に『「飛騨の家具」は、公的機関による国際基準の強度試験に合格したものです』と記載し、さらに、木の家具の手入れ方法について、素人でもわかりやすい文章を提供いただいた。この小冊子を教材に、大手家具チェーン店および全国の家具インテリア専門店等の社員研修会で、「安全な製品」の裏付として説明しており、「飛騨の家具®」ブランド化に大いに寄与している。	

C	今までの研究成果の内訳をあらためて再確認したが、多岐にわたる数多くのすばらしい成果実績であることを再認識した。それだけに成果発信の対象が学術論文、学会発表、報道発表等、専門家分野に偏っている感をぬぐえない。ベースとしては当然の対象であるが、もっと県内外を問わず学生や一般企業・一般市民へのアピールを強化して、岐阜県生活技術研究所としてのアイデンティティとオンリーワンの独自性を普遍的なものにするための情報発信、広報の専任担当が必要となるし、岐阜県生活技術研究所そのもののブランド化を志向することも意識されたい。	◎ 研究開発部長を中心に研究開発に関する情報発信、広報に取り組むとともに、県庁主管課における広報担当との連携を密にすることにより、一般向けの広報など効果的なPRに努めます。また、今年度試みた家具フェスティバル期間中での研究所公開、見学案内等を今後も継続し一般の方へのPRに努めます。
	知的所有権取得については、民間企業の認識として実用新案は簡単に取得できるが取得権限の評価が弱い感じがある。やはり特許ならびに商標・意匠権で取得することが万全だと考えている。	実用新案権については、特許権に比べ権利保護、行使の面で弱い部分がありますが、かかるコストが少ない等の利点もありますので費用対効果を考えて、取得する知的財産権を選択していきます。
D	論文作成の時間を見出すのが難しいと思われるが、積極的に対応いただきたい。	今後とも研究員の自己研鑽、資質向上のために論文投稿を奨励していきます。
E	大変多様な研究をされているが、中小企業等がそれを知らない。企業訪問や見学の受け入れなどでよりPRを図るといいのではないかと。	◎ 巡回技術支援やニーズ調査などの企業訪問や商工会議所、商工会を通じたPRを実施していることです。見学は、問い合わせによる受身的な対応であるため、今年度試みた家具フェスティバル期間中での研究所公開など、より幅広いPR活動に努めてまいります。

(4) 技術支援

※ ◎印：改善策

意見・提言		評価を受けての試験研究機関等の所見・改善策等
A	現状で十分に優れているので、この維持を望む。	
B	非常に多くの技術相談、依頼試験の対応をされており、優れた状況だと思います。ただ、長時間の試験については費用がどうしても高くなってしまい、敬遠せざるを得ないので、可能な限りの試験コストの低減化をお願いしたいと思います。	依頼試験手数料や開放試験機器使用料は、機器の減価償却、必要な電気代、消耗品、人件費等を基に実費を算出しております。今後、定期的に料金を見直しますが、JIS等で定められた手順により試験を実施するため、大幅な減額は困難な状況です。

B	<p>技術講習会も内容に興味深いものが多く、弊社スタッフにも参加を促したいのですが、開始時間が遅いことがネックになっています。こちらも可能であれば、昼間での開催を希望します。</p>	<p>技術研修会の開催時間については、参加者のアンケート調査により、夜間開催を望む声が多いのが現状です。一方、講演会や研究会などについては、昼間での開催を行っていきます。</p>
C	<p>地域ブランド化は消費者からの「評価と期待」を高めることであり、一朝一夕に果たせるものではないが、生活研の長年にわたる多大なる成果実績の累積は、地域資源として重要な位置づけで評価・活用ができるものであり、地域ブランド化を目指す上で、多くの地場産業の団体・企業から感謝され地域貢献をしている。</p>	
	<p>企業担当者としては、日常業務の中で身近で気軽に親切な技術相談をしている状況で、自ずと電話相談数が増えることと思われる。そこがありがたいことと思っている。</p>	
	<p>依頼検査については、例えば「飛驒の家具®」ブランド化の品質基準、公的機関による強度試験の義務化により、認定企業10社が椅子、テーブル、ボードの検査を実施したが、多くの企業が初めての検査であり国際基準ISO仕様の合格を得るのに、技術指導を並行して受けたが、「飛驒の家具®」の技術力と品質向上につながった。認定企業10社の中には、零細企業が含まれており、依頼検査の規定価格を値下げしてもらいたいとの要望がある。県外からの依頼検査を値上げして、地元企業の要請に応えてもらいたい。</p>	<p>依頼試験手数料は、統一した算定基準に基づいて決定しているため、特例を設定することは困難です。一方、試験結果書は発行できませんが、比較的安価に利用できる開放利用機器の設定を増やしていくことで、企業が利用しやすい試験環境を検討します。</p>
	<p>3. 11の原発事故をきっかけに、木材、家具の放射線測定器を設置していただいた。地元企業からの検査実績は数件と思うが、小売店等「飛驒の家具」研修会の折、生活研で測定ができる体制になっていることを説明すると、さすが飛驒の家具と納得されている。</p>	
<p>今後の技術支援において、後述の「製品安全対策の視点」を依頼者に機会あるごとに意識づけていただきたい。【①安全な製品を製造するための取組み②製品を安全に使用してもらうための取組み③出荷後に安全上の問題が判明した際の取組み④製品安全文化への取組み】以上、4つの視点で</p>	<p>製品の安全性評価に関する試験については、必要に応じて現場で説明を行っています。</p>	

C	製品の安全文化の醸成を促進することは、CSR（企業の社会的責任を果たす活動）さらには、企業ブランド、地域ブランドにつながるものである。	
D	極めて多くの依頼検査をこなしておられる姿に感心した。ぜひこの体制を続けていただきたい。	
E	試験の依頼をしても迅速に対応していただけるのでありがたい。	

(5) 人材の育成・確保

※ ◎印：改善策

意見・提言		評価を受けての試験研究機関等の所見・改善策等
A	多くの日常業務をこなしているので困難さは容易に理解できるが、派遣研修等の実績が少ないので、「5」に近い「4」と評価したい。	◎ 限られた研究員数で所内業務を運営しているため、できる範囲で若手研究員の研修を推進します。
B	インターンシップは企業も含め、今後は増えてくる社会ニーズですので、積極的に対応していただきたいと思います。また、グローバル化という意味でも、海外での研修や研究、人材交流も図られてはいかがでしょうか。	今後も地元高校生等からのインターンシップの受け入れを積極的に実施していきます。また、研究員の海外における研修、研究は、現状では人員、予算面から困難な状況です。
C	一人の力は、よりよいチームや組織の中では何倍もの力を発揮する。それが組織力だと思う。要望している女性の採用や専門家の増員を果たしても、その組織を束ねる管理者のマネージメント力一つで目標に対する成果は大きな違いが出るものと思う。	当所では、以前より研究分野や支援分野に近い研究者のグループ制を推進し、業務の効率化と高度化を図っています。また、管理者のマネージメント力の向上のために自己研鑽を図ります。
	生活研の研究者は博士号取得者が大勢いるなど専門家集団であるが、研究所分掌表を見ると、大別して「管理調整係」「試験研究部」「技術支援総括」「研究会等の指導育成等に関すること」「依頼試験に関すること」等、一人の研究員が複数の職務を兼任していることはやむを得ぬこととしても、個人としては自分の専門分野の研究開発に重点的に時間を取りたいという思いがあるのではと推測する。専門職業務と兼任業務とのバランスをとることが重要。	県の研究者としては、研究業務と企業の課題を解決する技術支援業務等の兼任は必要であり、今後もそのバランスを考慮しながら、研究者の士気の向上を図っていきます。依頼試験については、業務専門職(2名)の資質向上を図り、これらの人材の活用することでより高度な支援に取り組んでいきます。
	総務省「地方自治・新時代における人材育成基本方針策定指針」(抜粋要)	研究員の自主的な活動の促進と、その風土・土壌づくりに努めます。

C	<p>旨)</p> <p>○人材育成の目的の明確化 少子高齢化の一層の進展、住民の価値観の多様化、環境に対する関心の高まり等社会情勢の変化に柔軟かつ弾力的に対応できる体質強化が重要であり、職員の資質向上と可能性・能力を最大限引き出していくことが必要。</p> <p>○学習的風土づくり 人材育成を実効あるものにするためには、単に研修を充実するだけでなく、職場における様々な場面を活用することが必要。したがって職場風土の改善目標、具体的な方策について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場診断表による診断：職場の留意すべき事項を職場診断表にまとめて、現在の職場のどこに問題があり何をすべきか検討する。 ・学習・研修成果の発表の場の提供：自主研修グループ活動等自己啓発の成果について、首長等参加する発表の場を設け、自己啓発の意欲促進と広く庁内に普及させることができる。 ・職員提案制度の実施：職員が改善意見等を提案する機会を設け、部局を超えた多彩な発想を引き出すとともに、その自主性や資質の向上を図ることができる。 <p>以上は、「指針」を見て関連があることと、納得したところを記載してみた。</p>	<p>今後は、研究員を独立行政法人・大学等の研究機関に研修派遣、学会、セミナー、専門講座、展示会に参加、専門技術・資格のための講習会の受講を積極的に推進していきます。</p>
	<p>研修生の受け入れ、研究員の派遣等で可能な限りの努力と活動をしているが、専門職業と兼任業務とのバランス、さらには突発的な問合せ、相談、依頼業務等の数多の対応を実行していくことは、自己啓発に向けた時間の確保を難しくしていることが伺える。前進のためには現状態勢への物理的限界を感じざるを得ない。</p>	<p>限られた研究員数であるため、業務の優先順位、他機関との連携により、対応していきます。前記と同様、自己啓発、資質向上に向けた研修を推進します。</p>
D	<p>人材育成に対する積極的なアプローチが好ましい。</p>	

(6) その他

※ ◎印：改善策

意見・提言		評価を受けての試験研究機関等の所見・改善策等
	「1. 研究課題の設定」でも少し書いたが、「ニーズ対応」に加えて「シーズの発掘」にも力を入れて欲しい。これは、医療機器・福祉機器などへの関心が現在ほどに高まる以前からこの分野に注目して研究開発に取り組んで世の中の動きを先取りし、多くの試験研究機関に比較してアドバンテージを獲得したが、それに安閑とすること無く、「この次」に続くテーマの選定や発掘も怠ってはいけないと思う。	◎ 前記のとおり、将来を見据えた研究テーマ設定にも心掛けます。特に、今後は人間の五感に関連した研究分野にも挑戦していきます。
A	効率を追い求め過ぎると、地元企業支援を支える「研究の基礎体力」が低下するので、短期だけでなく長期的に役立つ「基礎的研究」にも配慮し、「長期的な効率性」を考えて欲しい。一例として、「光による木材の色変化」はややもすれば趣味的な基礎研究と位置づけられるが、今後、自動車をはじめとする工業材料として木材利用を進める上で、重要な研究として注目度が上がりつつある。このような「当たり」の陰には多くの「外れ」が存在するのが研究開発であり、ある程度の「外れ」は研究コストである。おそらく、このような姿勢で進んできたので、全国的にも高い評価を受ける研究所として認識され続けているのだと思われる。後追い研究が多い公設研の中であって、一目置かれる研究レベルの高さを「自らしっかりと自覚し」、今後とも維持する努力を継続されることを期待する。	研究課題の設定では研究者の技術シーズを蓄積するため、科研費などの外部資金を活用し、研究の基礎体力の維持向上、基礎的研究も実施し、研究所としてのレベル、オリジナル性を維持するとともに、地域ブランドを発信する地域への貢献を目指します。
B	弊社の開発セクションも同じ状況ですが、女性スタッフの積極的な登用は今後、必要になって来ると思います。 女性ならではの感性を生かした研究、取り組みに期待します。	大学等の女性研究者との連携を図りながら、新たな視点の研究課題にも取り組んでいきます。
C	本当にありがたい存在だと感謝している。現状の生活研の建物は手狭で老朽化しており、耐震性も心配している。新しい分析機器や物性試験機器の導入も困難な状況の中で、研究者の方々が、国や大学等の研究機関と連携するなどして、やり繰りして頑張っている。	今後、当研究所の機能強化について検討していきます。なお、平成29年度に耐震工事を実施する予定をしております。
	今後、生活研を核として【人づくり、モノづくり、マチづくりそしてブランドづくり】を促進していく上で、人不足、スペース不足は将来の発展を	当所の研究開発、人材育成等に関する機能強化については、木工芸術スクールとの連携等を含め、今後検討が必要であると考えていま

	妨げるものと考えられる。生活研のますますの発展をベースとした円滑な研究活動を継続していただく上で、上記のスペース不足について、例えば木工芸術スクールの敷地内に研究所を設置することを提言する。木工芸術スクールと研究所とが連携することにより、さらなる人材育成につながり、一挙両得となるのではないだろうか。	す。特に、相互の機器の活用を図り、高度な人材育成に寄与します。
	研究員の女性の採用や専門分野の人材増員は人事課の裁量に従うしかないということであるが、人事課は生活研の実情を真に把握して判断できているのか疑問である。高山市や飛騨市および地元有力者を巻き込んだ陳情等の積極的な要望を力強く推し進めるべきではないだろうか。	研究員数に関しては工業系試験研究機関全体の機能強化を検討していく中で、県の施策との整合も図りながら議論していく課題と認識しております。女性研究員については大学等の女性研究者との連携を図りながら、新たな視点の研究に取り組みたいと思います。
C	<p>飛騨地区には地方創生の地域振興・活性化の素地がある。</p> <p>ブランドとは、地域イメージと商品イメージの2つから構成されるモノで、そのどちらが欠けてもブランドにならない。飛騨高山は、四季の変化など自然に恵まれ、飛騨の匠に代表される歴史・文化などの地域イメージを構成する要素がある、また、伝統工芸、木工製品、飛騨の家具、飛騨牛や高冷地野菜などの農畜産物、日本酒、和食文化などの商品イメージを構成する要素がある。しかしながら、伝統工芸や森林整備の担い手の確保、価値ある商品の開発、市場開拓など、商品イメージを高めるための課題も多く抱えている。そのため、ヒトづくり、モノづくり、マチづくりなどをおして、消費者や観光客から高い評価を得られるようなブランドづくりを進めていくことが重要であり、これらは多くの人を呼び込み、多くの市場を確保するブランドづくりに繋がり、ヒト・モノ・マチづくりを勢いづかせることになる。</p> <p>地域のそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的、魅力的なブランドづくりの岐阜県の、いや日本のモデルケースとして確立させる上で、飛騨高山ブランドと生活技術研究所ブランドが車の両輪として連携していくことが重要だと思う。</p>	今後も飛騨高山の高度なブランド構築に貢献していきます。特に継続的に、人材育成、オンリーワンの技術開発を追求し、地域貢献を図ります。
E	地元（県内）企業に対し、製品評価試験費用特に強度試験、耐久試験レベル4について、多少ディスカウントしていただけると大変ありがたいと存じます。結果として、地元木工メーカーの試験依頼も増え双方にとってメ	依頼試験手数料は、統一した算定基準に基づいて決定しています。

<p>リットがあると考えます。 ※飛驒家具ブランドはレベル4クリアが条件になっているが、レベル4試験はレベル3試験の倍のコストが必要となり、中小企業を圧迫しています。</p>	
---	--

岐阜県商工労働部試験研究機関評価員会議設置要綱

(制定：平成 26 年 4 月 1 日付け産技第 24 号商工労働部長通知)

(目的)

第 1 条 当県の工業系試験研究機関の研究体制、役割機能等について客観的に検討を行い、試験研究機関の発展及び充実を図るため、商工労働部試験研究機関評価員会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 評価員は、次の各号に掲げる事項について必要な評価、助言等を行う。

- 一 研究課題の設定に関すること
- 二 研究体制に関すること
- 三 成果の発信と実用化促進に関すること
- 四 技術支援に関すること
- 五 人材の育成に関すること
- 六 その他必要な事項

(組織)

第 3 条 評価員は、会議開催時に、当該試験研究機関の研究開発に関し優れた見識を持つ学識経験者及び関連のある産業界等から商工労働部長が 5 名を選任する。

(庶務)

第 4 条 会議の庶務は、商工労働部産業技術課が行う。

(その他)

第 5 条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、産業技術課長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。